

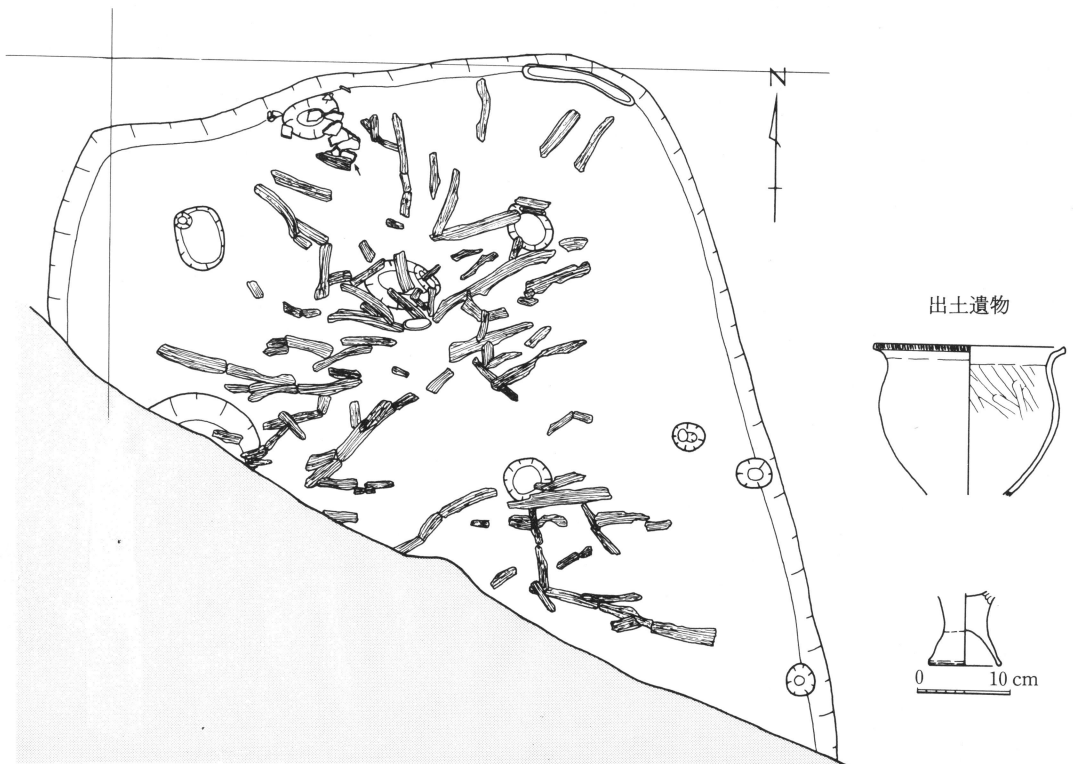
おか しま
岡 島 遺 跡

調査の経過

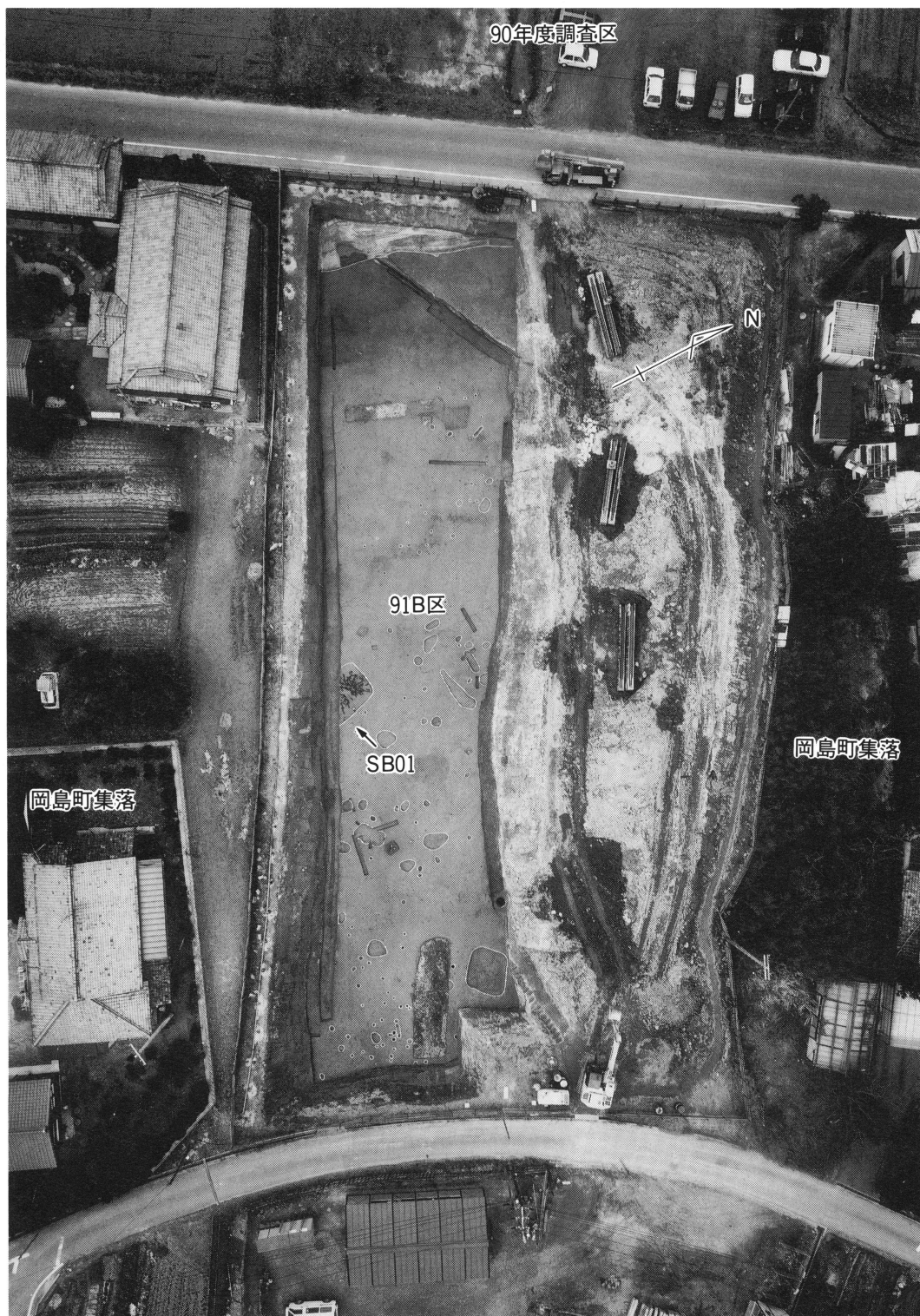
岡島遺跡は、矢作川左岸の沖積低地上の微高地に所在する弥生時代を中心とした集落遺跡である。今回の調査は、平成元年度から開始された国道23号バイパス建設に先立ったもので、面積は2,500㎡である。

調査の概要

本年度の調査区は平成2年度調査区の東方にあたる。調査にあたっては、排土置き場の確保などの理由からA・Bの2地区に分割した。なお、今回の報告は、本稿を執筆している現在（1月下旬）も調査が継続中である関係上、91B区の紹介にとどめる。今回の調査で検出された遺構は竪穴住居1棟、土坑90基などがある。このうち特筆すべきは竪穴住居の存在で、プランは長方形を呈するものと考えられる。規模は、確認できた1辺が5.6m。床面では2基の柱穴と炉のほか、放射状に炭化材が分布し、これは垂木などの上部構造材である可能性を持つ。出土遺物には下図に示す台付甕がある。（池本正明）



第1図 竪穴住居 1:80



調査区全景